

真宗文化の宝庫 文化財・古文書多数

三河の浄土真宗で最も古い

妙源寺

三河国 真宗高田派の中心寺院



松平・徳川家に仕えた武将（重臣）の墓が沢山ある。

柳堂の石碑



本多光太郎墓所



山号	桑子山
宗派	真宗高田派
本尊	阿弥陀如来
創建年	1258年（正嘉2） 平田荘桑子道場→明眼寺→妙源寺
開基	安藤薩摩守信平（元 桑子城主） 法名；念信房蓮慶（れんきょう）
住所	岡崎市大和町字沓市場65

山門 薬医門形式



薬医門；前方2本、後方2本の4本の柱で屋根を支える。屋根の中心の棟が、前と後の柱の中間（等距離）に位置せず、やや前方にくる。前の柱の方がやや太く、加重を多く支える。



山門 楼門形式



楼門；二階建ての門。

山門 四脚門形式・銅葺き屋根



四脚門；門柱の前後に控柱を設け、合計6本の柱で屋根を支える。こうした、控え柱が4本ある門を四脚門という。別名 四足（よっあし）門。非常に格式の高い門。 *この門は柳堂の門なのか？



岡崎観光きらり百選 妙源寺

国指定重要文化財

妙源寺

建造物 妙源寺柳堂（附厨子一基、須弥壇一具、棟札）

妙源寺は、三河真宗最初の道場といわれる。正嘉二年（一二五八）の創建で、開基は河内国阿倍野から移り在地領主となった安藤薩摩守信平である。

柳堂は安藤氏が奉持した聖徳太子御直作の尊像を安置した太子堂と伝わる。堂前に柳の大樹があつたので柳堂と称した。建立年代は明らかではないが、残存する棟札によると、現在の堂は正和三年（一二三四）から慶長十八年（一六一一）までの再建と考えられる。三間四方、寄棟造、檜皮葺、向拝一間付で、内部は仏壇表に禅宗様須弥壇を置き、その上に一間入母屋造の厨子を安置し、簡素な棹縁天井が低く張られている。様式的には十五世紀前半（室町時代）のものであり、浄土真宗寺院の初期の建築様式がよく残る、さわめて貴重な建造物である。

明治三十八年四月十五日指定

絵画 絹本着色善光寺如来絵伝 三幅

絹本着色法然上人絵伝 三幅

絹本着色親鸞上人絵伝 三幅

各絵伝とも大和絵の画風を伝え、墨の巧みな表現など優れた描写をみせる。鎌倉時代の制作と推定される。

大正七年四月八日指定

絵画 絹本着色光明本尊 三幅

鎌倉時代の作。後世の光明本尊は一幅構成を定型とするが、本図は三幅構成をとっており、初期的様相をうかがわせる点で貴重である。

平成二十六年八月二十一日指定

他に岡崎市指定文化財十三件

岡崎市教育委員会

鐘楼



本堂



講演開始前にはまず合掌

10:01



【安藤章仁 講師】のお話

一筆習上・昨左の会

地域の歴史を探る

妙源寺編

◆最初に寺の名前について少しお話します。

当寺は、妙源（みょうげん）寺ですが、初めは明眼（みょうげん）寺という名前でした。〔三河一

向一揆の時助けた徳川家康が、源義経ゆかりの寺の本尊を持っ

ていった縁から、源氏の一字「源」を与えられ、妙源寺と改称した。〕

寺号でその寺のことがわかる場合もあります。宗派に関連する場合もありますが、浄土教とはかけ離れた真宗の寺もあります。満性寺とか明眼寺はそれです。聖徳太子とゆかりが深いとわかるのは、勝鬘寺、上宮寺です（聖徳太子…勝鬘経を講じる。聖徳太子＝上宮太子）。寺の名前に気をつけてみるのもおもしろいです。

○寺号の多くはその宗派の依拠する經典などに由来すること多い。浄土真宗では、浄土三部經（仏説無量壽經、仏説觀無量壽經、仏説阿彌陀經）

○浄土真宗の本願寺派の寺号で多いもの＝西光寺、光明寺、正覺寺、安樂寺、西教寺。西→「西方極樂浄土」、光→阿彌陀如来は「光壽無量の仏さま」、安樂→「極樂」と同じく「お浄土」のこと、西教→「西方浄土の教え」

- ◆次に寺院の建てる時の向きについてですが、寺の向きはどちらに向かって手を合わせる（拝む）かです。南に向いている寺(北に向かって拝む)は、“君子南面す”という中国の故事にもとづいてです。国家仏教の時代です。大陸文化の影響を受けている寺は基本としてこちらです。
- 浄土教が広まってからは西に向かって手を合わせます(東向きに建つ)。阿弥陀如来の浄土である西です。
- ◆西の仏は「阿弥陀如来」…「西方極楽浄土の教主」で、死後の極楽浄土を約束してくれる仏様です。
- 東の仏は「薬師如来」…「東方瑠璃光浄土の教主」で、現世で病気を治してくれる仏様です。



- ◇京都と奈良の県境に近いところに「浄瑠璃寺」があります。ここは一度行ってみるといいです。
- ◇東に三重塔があり、そこに創建当初の本尊である薬師如来坐像が安置されています。西に本堂（阿弥陀堂）があり、浄土の主である阿弥陀如来の9つの木像が祀られています。
- ◇お彼岸の日（春分・秋分）にも参拝することができますが、この日には、太陽がちょうど東の「三重塔」から昇り、西の本堂「九体阿弥陀堂」の真裏（九体の真ん中に）に沈みます。スペクタクルです。

- ◆お釈迦様と阿弥陀さまの違いがわかりますか（像）？



手を見て下さい

(OKしてるのが阿弥陀様)



開いている

親指と人差し指を結ぶ

① 三河地方における 真宗サンガの基礎知識

サンガ（僧伽）＝ 僧。サンスクリット語で、本来は集団、共同体の意味。

- ◆愛知県は寺院が都道府県で一番多いです。宗派では浄土真宗が多いです。寺の系譜で法脈と血脈に別れます。法脈は弟子、血脈は親子でつないでいきます。
- ◆真宗の宗派は本願寺が多いのですが2つに分かれています。大谷派（東本願寺）は全国に9000近く、門徒500万超。西本願寺は、約1万、門徒700万です。

【法脈】

親鸞－真佛－顕智

専海－円善－如道(如導)－

道性－善充－

如覚－

如浄－

源海－了海－

経譽－

蓮教－

高田派

山元派

誠照寺派

三門徒派

佛光寺派

興正派

【血脈】

親鸞

(善鸞)－如信－

覚信尼－覚恵－覚如 存覚－

(従覚)－善如－蓮如－顕如 教如－

准如－

善入－

木辺派

大谷派

本願寺派

出雲路派

高田派 636/223,900

木辺派 199/ 49,500

山元派 21/ 1,775

大谷派 8,838/5,533,146

誠照寺派 71/ 25,000

本願寺派 10,464/6,940,917

三門徒派 36/ 12,634

出雲路派 61/11,300

佛光寺派 390/47,540

興正派 497/－

本願寺の東西分派

- ◆本願寺11代顕如が亡くなり、3人の子がいましたが、秀吉は長男教如を12代にしました。しかし母親が、顕如は三男の准如に譲るという意味だったと書面で秀吉に訴えました。信長と

元龜元年 (1570) 九月 石山戦争勃発……11年間

天正八年 (1580) 八月 大坂石山→紀州鷺森

天正十一年(1583) 七月 顕如、紀伊鷺森より和泉貝塚に移る

天正十三年(1585) 五月 秀吉、大坂天満の地を本願寺に寄進

天正十九年(1591)閏一月 秀吉、京都六条堀川(現在の西本願寺)の地を本願寺に寄進

文禄元年 (1592) 七月 阿弥陀堂完成

十一月 御影堂完成、顕如急死(50歳)

秀吉の命で長男教如が十二代継職

文禄二年 (1593) 閏九月 如春尼が顕如の譲状をもって三男准如の就任を要請

秀吉が教如に十年後に准如に寺務を譲ることを提案するが、教如側(坊官下間頼龍)は拒否

慶長七年 (1602) 二月 秀吉は、教如を引退させ准如に継承を命じる
教如、家康より京都東六条に寺地四町四方の寄進を受け、東本願寺を分立

石山本願寺の戦いの時、和睦派の顕如・准如と、徹底抗戦派の教如の対立の結果です。結果、秀吉の裁定により本願寺の宗主は准如とされました。(後に西本願寺となる)

秀吉の死後、家康はここをつき、東本願寺を建て、追い出されていた教如を入れます。本願寺という大勢力を2つに分裂させ、勢力を弱めたのです。

◆以後、東と西は統合することなく、東本願寺…「真宗大谷派」
西本願寺…「浄土真宗本願寺派」として今日があります。

②

妙源寺のお参りどころ

法宝物

妙源寺のお参りどころ

【中世】= 真宗文化の宝庫

「選択相伝御影」

「方便法身尊号」

「真宗曼荼羅」

「柳堂」(太子堂)

「真宗四種絵伝」(善光寺如来 聖徳太子 法然聖人 親鸞上人)

【近世】= 松平氏と徳川氏の要所

「百韻連歌」

「九郎本尊」(黒本尊)

佛教文化の宝庫

「当麻曼荼羅」

「涅槃図」

「舍利厨子」

◆妙源寺は真宗文化の宝庫です。

●「方便法身尊号」… 親鸞聖人の真蹟(真筆)は4点しかないが、そのうちの1点。

●「太子堂」… 真宗の伽藍の中で一番古いのが、妙源寺の柳堂(太子堂)。

●四種の絵伝が3幅ずつ。

●「選択相伝御影」… 親鸞が授かった法然の御影。一番古いもの(原本)。

①百韻連歌



連歌の松遺跡

残った松は後の1本のみ

◇百韻連歌… 和歌の五・七・五(長句)に、ある人が七・七(短句)を付け、さらにある人が五・七・五を付け加えるというように、百句になるまで長句・短句を交互に連ねていく。上の句を聞いてすぐ下の句を詠まないといけなないので、創作力がないとできない。発句を読むのは専門家の連歌師で、指導者として全国を行脚し、武家や公家などとの交流で情報量も多かった。連歌をすることは、文化力を高め、情報収集の場とすることで重要でもあった。戦国武将は連歌を通じて、交渉力や知力なども培っていた。

◆1518年(天正15)、妙源寺で連歌師柴屋軒宗長や住職秀蓮ら14人での連歌の会がありました。当寺に、その時の百韻連歌懐紙が残されています。松平一族の作者名がみられます。

④本尊 阿弥陀如来像 について 現在のものは2代目

◆岡崎には牛若丸と浄瑠璃姫の浄瑠璃姫伝説がありますが、初代の本尊は、源義経が大事していたという本尊でした。家康は陣中の守り本尊として帯同していましたが、欲しいと言って駿府に持っていきました。最後は東京の芝の増上寺に奉納されて、今も「九郎本尊(黒本尊)」として多くの人々の信仰を集めています。

当寺は、その縁で明眼寺から「源氏」の源を入れた妙源寺に寺号が変わっています。家康に名前を変えられた珍しい寺です。

◆仏像には、倒れないようにするために、足の裏に「足ほぞ」というかまぼこの板くらいのものをつけて安定させます。一方、仏様の足の裏には仏足紋というありがたい紋を入れますが、足ほぞをつけるとそれができません。それで、2代目の御本尊は、代わりに支えをつけています。鎌倉時代という大変な時代でしたので、足の裏にもそれほどの思いをかけていたのです。

⑤選択相伝御影

◆法然上人の御影像で一番古いものです。親鸞が『選択集』の書写を許可された際に、法然上人より賜ったものです。

◆(掛軸右上に書かれた)「南無阿弥陀仏」は自筆(=真蹟)です。本寺にある筆跡と比べて間違いありません。

◆他宗では、御影は普通、お参りをするものなので、きちんとした姿をしています。しかし、浄土教では、ありのままの姿を表します。仏教は身近な存在であるものだからです。

妙源寺の掛軸の法然上人の姿；背を傾けていて、きちんとしていない。ひげがのびている。草履が無造作に置いてある。

④方便法身尊号

方便法身尊号とは

浄土真宗における本尊には、**方便法身尊号の名号**と方便法身尊形の絵像・木像とがある。（つまり本尊である）

名号とは、仏・菩薩の称号のことをいう。「名をもって号（さけ）ぶ」という意味を持つ。「六字名号」・「九字名号」・「十字名号」などがある。
六字名号＝南無阿彌陀仏、九字名号＝南無不可思議光如来、
十字名号＝帰命尽十方無碍光如来（きみょうじんじっぽうむげこうによらい）

名号本尊（みょうごうほんぞん）は、浄土真宗の本尊の形態の1つ。
「六字名号」・「九字名号」・「十字名号」を紙や絹などに書いて表装したもの。

「方便法身尊号」

（ほうべんぼっしんそんごう）

親鸞聖人真蹟4点の内の1点

枯淡にして力強い筆勢

◇親鸞聖人が84歳の時にこの地方に来られたとき、4箇所まで自筆で書かれた。大きな字はあまり書いていなかったの、最初（1日目2点）は少しバランスが悪くなってしまったが、3日後の2回目（2点）には修正して書かれた。

妙源寺にある掛軸の名号は、

帰命尽十方無碍光如来

3日後（2回目）に書かれたもの

⑥真宗曼荼羅

『真宗曼荼羅』

（しんしゅうまんだら）

親鸞聖人(1173-1262)と

真佛上人(1209-1258)の合作

重層的眞宗世界観

曼荼羅とは； 仏教の中でも特に密教（真言宗や天台宗）で考えられている悟りの境地・仏の世界観を絵柄で示したもののこと仏教の教えを視覚化したものといわれ、ひとつの曼荼羅に様々な仏様が描かれている。

真宗曼荼羅； 親鸞は寺を持たず全国行脚で布教した。その際、この曼荼羅三幅は大きくなく持ち運びやすかった。

妙源寺「真宗曼荼羅の三要素」

1. **篤敬三宝**； 一枚の絵に「仏・法・僧」が描かれる。
僧：聖徳太子＝仏教を取り入れた。源信＝仏教を広めた。法然＝念仏を広めた。
2. **三国伝来**（仏教）； 三国（印度→中国→日本）の僧が描かれる。
3. **三尊信仰**； 西方極楽浄土の「三尊仏」が描かれる。
三尊仏；「勢至菩薩」「阿彌陀仏」「観音菩薩」（聖徳太子は観音菩薩の化身）

◆親鸞はお弟子さんに“死にたくない”とこたえました。これもありのままの姿です。

歎異抄（たんにしょう）の一節 親鸞上人

何度も何度も輪廻転生（りんねてんしょう）で生まれかわって味わう苦悩の多いこの娑婆（しゃば）を捨てがたく思い、まだそこに生まれていないけれど極楽浄土は少しも恋しく思われません。

親鸞上人 「死にたくない、極楽浄土へゆきたくない」と言っている。

⑥徳川家康公所望状

妙源寺の法宝物

「徳川家康公所望状」

（とくがわいえやすこうしょうじょう）

宛所について

寺号について

明眼寺

三月廿一日

家康（花押）

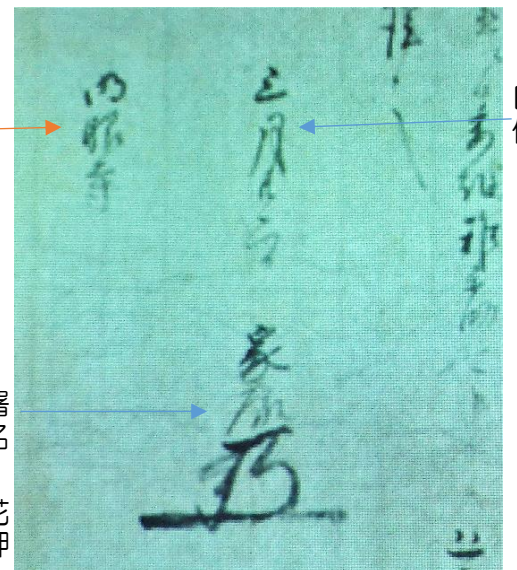
患心之阿彌陀申請度候由候処、御本寺へ可被仰屈之條、相意得候、然者先具内可被預ケ置之旨、申入候処、御領掌令祝着候、自然余寺へ可為寄進之極、御内証候哉、聊非其儀候、家康持仏堂二為令安置候、委細雅樂助可申入候、恐々謹言

明眼寺

署名

花押

日付



◆この時代、武家の多くは、文書は右筆（ゆうひつ）が書き、自身は署名・花押のみ行うのが一般的でした。この手紙は家康が全文自筆で書いています。手紙は巻いてあるわけですが、そのこの所の文字も自筆でした。非常に珍しいです。

◆宛所（この場合は明眼寺）ですが、どの位置（高さ）に書いてあるかが重要です。上下関係によります。この手紙は、上の方に書いてあります。この寺に敬意を持っている証です。

◆こうした関係から寺名に「源」をいただき、「葵の紋」の使用も許されたのです。



⑦柳堂

柳堂の伝承

『正和三年(1314)銘棟札』

「奉加修理太子堂上葺廊等満、于時正和三年八月六日平田住持慶念、桑子専修念仏柳堂、門徒衆等為菩提也 面テ見兼申故裏改写者也」

『三河念仏相承日記』 貞治三年(1364)

『高田開山親鸞聖人正統伝』

伊勢常超院良空 享保二年(1717)

『参河聴視録矢矧村記』

加茂久算

嘉永二年(1849)

「柳堂」伝承の広がりー岡崎市内ー

- ・和田山(寂光山)勝鬘寺(三河三ヶ寺、東)
永禄七年(1564)一揆敗北後、13世了意は信濃井上に逃れ、天正十三年(1585)に還住が認められる。
- ・河水山柳堂寺(東)
文明18年(1486)蓮如の方便法身尊像裏書
- ・河原山勝蓮寺(東) cf.「柳堂薬師」

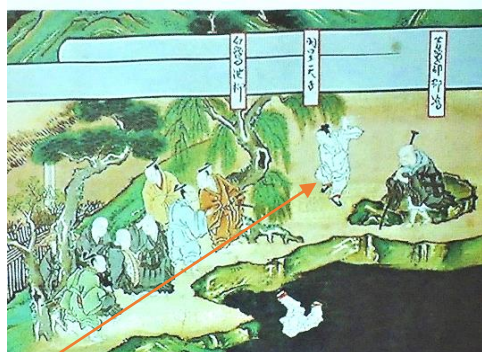
「柳堂」伝承の広がりー岡崎市外ー

- ・法盛寺(桑名坊舎柳堂、西御坊)
室町時代後期に戦乱を避けて桑名に移る
- ・旧西円寺(飯綱町黒川)
➢ 宗派的には本願寺系が伝承を持つ
➢ 伝承の史料的裏付けは18cを待たなければならない
➢ 「矢矧」での教化伝承は多い
- ・なぜ「柳」なのか
五天良空『高田開山親鸞聖人正統伝』

◆柳堂は、東海地方の真宗の広がり大きな役割をになっていました。

◆なぜ「柳」？… 高田専修寺草創の伝説 = 1225年、親鸞聖人 53歳の時、一人高田（現栃木県）を訪れ野宿をします。夢の中に童子が現れて「ここに伽藍を建てなさい」と言って、聖人に柳の枝と菩提樹の実を渡されました。そこは低い泥土だったので、伽藍を建てるのは無理ではないだろうかといぶかしがりながらも、聖人はその泥土に柳の枝を挿し、菩提樹の種をまきました。朝、目が覚めると、なんと、その辺りの沼田が隆起して高田となり、柳は茂り、菩提樹は大木になっており、それなら伽藍を建てようということになり、お寺が建てられた という伝説。

戦国時代に兵火によって焼失するなどのことがあって衰退し、教団の中心は三重の津に移りました。その中心は、高田本山専修寺です。栃木県高田の寺は江戸時代に復興し、本寺 専修寺となっています。



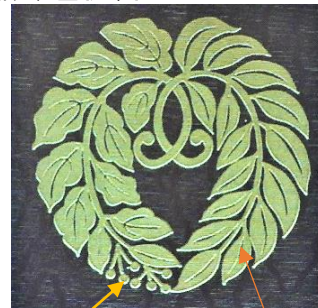
童子＝明星天子（虚空蔵菩薩の変化身）

高田本山専修寺



三重県津市

柳葉菩提樹 高田派の紋



菩提樹 実 柳
菩提樹＝知恵、柳＝観音菩薩

妙源寺の法寶物の展示は、毎年8月7、8日に行っています。

本年は、10月15日（日）に上宮寺と合同で、法宝物展を行なおうと計画中です。その時に当寺の法宝物を拝んでいただき、今日お聞きになったことの確認をしていただければと思います。

境内

柳堂

11:14



部戸（しとみど）



2枚の格子(こうし)の間に板を挟んだ建具。上下2枚に分かれる。上半分ははね上げて先端を金具にかけて固定。

柳の木



寄棟・檜皮葺の屋根。中には聖徳太子像が安置されている。



臺股（かえるまた）の欄間



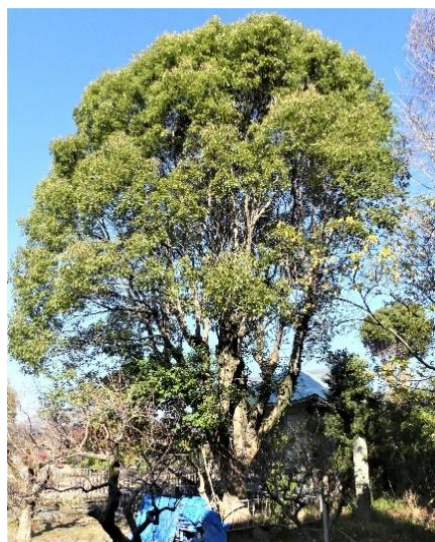
亀腹 水はけを良くして、基礎を保護する。



基礎部分を饅頭型に。漆喰などで白く塗られている場合が多い

石碑の「国宝」は戦前の法律の旧国宝のことで、現在は国重要文化財。

よみがえったクスノキ(楠)



親鸞聖人 御用水



◆親鸞お手植え。伊勢湾台風で倒れる。

株から新しい芽が出て今の姿に。株から新しい芽が出て今の姿に。

◇クスノギ科ニッケイ属。常緑高木。樹皮や葉は樟脳の香りがする。



冬青空歴史を守る避雷針

墓地

安藤直次

紀州田辺藩初代藩主



← 小さなお墓は殉死者の墓

○幼少より徳川家康に仕え、多くの合戦で武功。本多正純や成瀬正成と共に家康の側近として初期幕政を取り仕切る。徳川頼宣の附家老→田辺藩主となり初代紀州藩附家老。みなべ・田辺は梅産地→安藤直次の梅栽培奨励が始まり。

本多光太郎

「鉄の神様」



○現岡崎市新堀町の生まれ。東京帝大卒、東北帝大大学長。安価で耐性のよい強力磁石鋼（永久磁石）のKS鋼、新KS鋼を発明。研究成果だけではなく、それらを社会に結びつけていった功績。

長坂信政

異名は血鎗九郎



○松平清康・秀忠・元康（家康）の3代に仕えた。戦場で槍（やり）先が常に敵の血でぬれていたことから血槍九郎の名をあてられた。生涯で上げた首級は93なのを讃え、正月には93の鏡餅を並べ首餅と唱えた。子孫は旗本。

平岩親吉

（ちかよし）

徳川十六神将



○今川の人質時代から家康に付き従う。家康の長男信康の傳役（もりやく）となったが、信康切腹で謹慎。後に復歸。甲府城代。徳川義直の傳役。義直が尾張藩主に転ずると、尾張藩附家老、犬山藩主。

本多忠高

本多忠豊



○本多忠勝の祖父（忠豊）と父（忠高）
忠豊は、安祥城をめぐる織田信秀との戦いで松平広忠を逃がすため、殿（しんがり）を務めて討死。（第二次安祥合戦）
忠高は、安祥城を攻めた時に時に討死。（第三次安城合戦・守将は織田信広）

高木清秀



○徳川十六神将の一人。水野信元の家臣で、一向一揆の際、家康への援軍として出陣し武功をあげた。水野家に属しているにもかかわらず、高木氏の先祖の土地（現 安城市高木町）を与えられる。本能寺の変後、家康の家臣に。

安藤家歴代の墓



安藤家歴代の五輪塔。必ず1人が殉死する。脇の小さな五輪塔はすべて殉死者。



ありがとうございました。

11:33

（記：竹内 喜則）